

【がん種】 **大腸癌**
 【レジメン名】 FOLFIRI+Rmab
 【登録番号】 160536
 【1コースの期間】 2週間
 【総コース数】 進行・再発:PDまで
 【催吐性リスク】 中等度:カンプト、軽度:5-FU、最小度:サイラムザ
 【抗がん剤の組織障害性】 イリタント(炎症性):サイラムザ, カンプト, 5-FU
 【投与量に制限のある薬剤】 なし
 【主な有害事象】 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、注入に伴う反応、疲労、コリン作動性症候群、間質性肺炎、高血圧、蛋白尿、出血、血栓塞栓症、創傷治癒遅延、消化管穿孔、悪心、嘔吐、食欲不振、口腔粘膜炎、味覚異常、下痢、便秘、脱毛

【必要な検査】 編集中
 【根拠論文】 Lancet Oncol 16:499-508, 2015.

【点滴の時間】 [day1~]初回50時間35分, 2回目50時間5分
 【費用】 編集中
 【その他】 原則、CVポートを増設して治療を行う。カンプト:UGT1A1に*6(*6/*6), *28(*28/*28), *6(-/*6)+*28(-/*28)のいずれかの多型がある場合には骨髄抑制が強く出現する。

インフューザーポンプの使用可否:CVポートを造設している、外来で治療する場合(入院導入後に外来へ移行する場合には初回入院時でも使用可能、外来に移行せずに入院で治療を継続する場合には使用不可)。

インフューザーポンプ使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日				
					1	2	3	...	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
2	レスタミン錠 10mg	5 錠/回	内服	1日1回 サイラムザ投与30分前	○				
3	生理食塩液 100mL アロキン静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分 開始時にレスタミン内服 フィルター使用	○				
4	生理食塩液 250mL サイラムザ点滴静注液 調製開始から13時間以内に投与終了	1 B 8 mg/kg	側管	初回1時間、2回目~30分 フィルター使用	○				
5	5%ブドウ糖液 250mL レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」 6のカンプトと同時に開始	1 B 200 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
6	5%ブドウ糖液 250mL カンプト点滴静注 5のレボホリナートと同時に開始	1 B 150 mg/m2	側管	90分 フィルター使用	○				
7	生理食塩液 50mL 5-FU注	1 B 400 mg/m2	側管	全開 フィルター使用	○				
8	5-FU注	2400 mg/m2	側管	46時間 インフューザーポンプ使用	○				
9	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○	○		

インフューザーポンプ未使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日				
					1	2	3	...	14
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○				
2	レスタミン錠 10mg	5 錠/回	内服	1日1回 サイラムザ投与30分前	○				
3	生理食塩液 100mL アロキン静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分 開始時にレスタミン内服 フィルター使用	○				
4	生理食塩液 250mL サイラムザ点滴静注液 調製開始から13時間以内に投与終了	1 B 8 mg/kg	側管	初回1時間、2回目~30分 フィルター使用	○				
5	5%ブドウ糖液 250mL レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」 6のカンプトと同時に開始	1 B 200 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○				
6	5%ブドウ糖液 250mL カンプト点滴静注 5のレボホリナートと同時に開始	1 B 150 mg/m2	側管	90分 フィルター使用	○				
7	生理食塩液 50mL 5-FU注	1 B 400 mg/m2	側管	全開 フィルター使用	○				
8	生理食塩液 500mL 5-FU注	1 B 2400 mg/m2	側管	46時間 フィルター使用	○				
9	生理食塩液 100mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ		○			
10	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○	○		